



■I. 児童虐待の原因は、母子間の「愛着関係の不成立」

子どもを極寒の屋外に放り出して水をかける、炎天下の車内に置き去りにしてパチンコに夢中になる、躰けと称してタバコの火を押しつける、浴槽に幼児を残したままお風呂を出してしまう……児童虐待の一例ですが、これらは親の不注意や事故で起こることではありません。背景には親の**①子への共感性の欠如**、**②子の気持ちや行動を推測・予測する能力の不足**があります。子に対する共感性があれば、極寒の中で子に水をかけたり、タバコの火を押しつけることはできません。なぜなら、子の寒さや痛みを親自身も感じてしまうからです。炎天下の車内がどうなるか、背の立たない幼児を浴槽に残したらどうなるか、推測する能力があれば、決して起こりえない行為です。

子への共感性や子の気持ち・行動を推測・予測する能力は「普通の」正常知能の成人であれば、誰でも備えているもので、これらが**親子の愛着関係が成立する土台**になっています。**愛着関係**は生後から2歳頃までの期間に、幼児との間で継続的な心理的・社会的相互関係を維持して、幼児の養育に責任を持つような大人（多くは母親）と子との間に成立し、子はこの愛着関係の中に保護され、成長します（Bowlby）。愛着関係は母親が子の表情を読み取ることから始まります。すなわち、子が空腹で泣く→おっぱいを飲ませて→満足している顔を読み取る、あるいは子が寒そうな顔をしている→「寒いかい？これを着なさい」→嬉しそうにする子→母親の満足、という母子間の共感、感覚・感情の共有です。

正常な母親であれば誰でも備えているこれらの能力が、「**軽度**」知的能力障害の母親には欠如・不足しています。そのため、**愛着関係が成立せず**、親は一方的になり、子は保護されず、児童虐待が起こります。一般的には知的能力障害は「読み書き算盤」ができないものと理解されていますが、「軽度」知的能力障害の母親は「読み書き算盤」という概念的領域の理解はほぼ可能です。一方、他人の気持ちを推測する能力（**DSM-5：社会的領域の理解、対人関係の未熟性、情動の制御困難**）に問題があるために、子との間に十分な愛着関係が成立しません。専門家であってもこの「軽度の領域」の障害を見逃していることがあります。

厚生労働省が毎年発表する「**子ども虐待による死亡事例等の検証結果について**」を分析すると、虐待する母親の特徴として次のようなものが抽出されます（第3次～第12次報告の**メタ分析** / $p<0.01$ ）。まず、**養育能力の欠如**に関するものとして：①養育能力の低さ、②母子手帳の未発行、③妊婦健診未受診、④胎児虐待、④墜落分娩、⑤無計画な妊娠、⑥アルコール・喫煙の常習が見られ、**共感性の欠如・相手の立場を推測する能力の欠如**に関連した項目では：①人に対する攻撃性、②怒りのコントロール不全、③感情の起伏の激しさ、④衝動性 ($p<0.05$) などです。これらは精神医学的な視点から見ると、**軽度知的能力障害 (DSM-5:317)～境界知能 (DSM-5:V62.89)** の特徴と一致し、実際、児童虐待の現場では参考IQ=60～80の母親の事例が多く見られます。

■II. 「虐待の世代間伝達」のように見えるもの

①「**心因による虐待の世代間伝達**」と思われるものは、現場ではそう多くはありません。多めに見積もっても5%～10%です。これについての私たちの判定基準は、行政機関などに虐待が疑われる事例として上がってきたもののうち、母親との面接等によって以下の3つが確認された場合です。すなわち、①母親が**正常知能**である、②その母親の実母（祖母）が軽度知的能力障害をもっていたと推測され、実母（祖母）から**幼少時に虐待を受けていた**、③その母親が実際に自分の子を虐待している、です。彼女たちの多くは、愛着スタイルを評価する**AAI法（成人愛着面接法）**で言うところの**自律型（F type）**に分類されますが、一部、受けた虐待が激しいものだった場合は**愛着軽視型（Ds type）**の反応を示します。いずれにせよ、彼女たちは「正常な」子への共感性と子の立場を推測する能力を持っていますので、ジュディス・L・ハーマン（児童虐待の研究者）が述べているように「非常に極端なケースでは、児童期虐待の生存者は自分の子を攻撃するとか、保護を放棄することがある。しかし、一般に思い込まれている『虐待の世代間伝播』に反して、圧倒的大多数の生存者は自分の子を虐待もせず、放置もしない。多くの生存者は自分の子どもが自分に似た悲しい運命に遭いはしなうかと心底から恐れており、その予防に心を砕いている」（『**心的外傷と回復**』）と思われる。

②一方、上記機関に上がってきた児童虐待を疑われた事例の母親のおよそ**70%～80%が「軽度」知的能力障害～境界知能**であることが確認できます（AAIではE型とU型がほぼこれらに重なる）。軽度知的能力障害の母親は愛着関係が稀薄なために子を虐待してしまうことが多く、また遺伝的にその実母（祖母）に同じ障害がある確率が高く、結果として虐待の「世代間の連鎖」が起こります。こうして現場で「虐待の世代間伝達」と見えるものは、実際は、心因によるものは少なく、「**軽度**」知的能力障害の**遺伝的な背景**を持った場合がほとんどです。

